

# 利根大堰ダムカード Ver.2.0

NEW

## 大規模地震対策事業とは

近い将来に南関東で発生すると危惧されている首都直下地震（マグニチュード7クラス）に備えて平成27年2月より実施している事業です

利根導水路施設は、今なお首都圏のライフラインとして重要な役割を担っており、平成30年に管理開始50周年を迎えます。

これらの施設の中には、大規模地震が起きた場合、

ひび割れや破壊により損壊が生じ、水を届けられなくなったり、

周辺道路や河川等に大きな影響を及ぼしたりする可能性が高い施設があります。

そこで、本事業では利根大堰をはじめ、優先的に地震対策を講ずる必要のある施設について、

それぞれの構造や条件に応じた耐震補強工事を進めています。



## とね おお ぜき 利根大堰(大規模地震対策事業)

AWI



Ver.2.0(2017.11)

### Case.1



#### 利根大堰12号・13号堰柱(せきちゅう)

利根大堰本体の耐震性能を確保するため、堰柱部を鉄筋コンクリート巻立てによる補強を行いました。写真は、ポンプ車からコンクリートを打設しているところです。なお、堰柱部の耐震補強には、鉄筋コンクリート巻立てのほか、ポリマーセメントモルタル工法も採用されています。※詳しくは、ダムカード裏面のこだわり技術へ

### Case.2



#### 須加樋管(すかひかん)

須加樋管の耐震性能を確保するため、鉄筋を補強しコンクリートより強度の高いポリマーセメントモルタル増厚による補強を行いました。写真は、ポリマーセメントモルタルを打設する前の補強鉄筋の組立状況です。

#### 川の中の工事



利根大堰本体の耐震補強は、利根川の河川内での工事のため大型土のう等で仮締切をし、工事ヤードを囲って水を遮断して工事を行います。

#### 薄く強い材料



須加樋管は、取水口と大分水工をつなぐ利根川堤防を横断している施設で、通水能力を減少させないように耐震補強を行う必要があります。そのため、水路の内側を最小限の厚さで補強できるポリマーセメントモルタルを採用しました。

